Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

GSC022-07 会場:301A 時間:5 月 23 日 10:00-10:15

防災教育における地産地消　～静岡県が直面する地震津波連続災害の軽減をめざして～
Disaster prepardness and education activities based on locally produced and consumed concept

林 能成 [1*]
Yoshinari Hayashi[1*]

[1] 静岡大学防災総合センター
[1]CIREN, Shizuoka Univ.

自然災害の社会的影響をできる限り小さくとどめるための防災・減災は地球科学の有力応用分野の１つであり、科学・技術を社会に役立てることができる分野であると認識されている。理科教育の一部としてこれまでにも多くの魅力的なプログラムが展開されてきたが、その普及や継続的実施が難しいという問題点も指摘されてきた。このような課題を解消することをめざして静岡県では、地域に在住し災害に関する危険性を共有している人々を中心に、各自の職業・専門性をいかした形で参加してもらい、世代をまたいで知識や行動規範を広めていく活動を展開している。

静岡県では３０年以上にわたって東海地震が地域的重要課題の１つと考えられてきたが、その教育のための教材作成などには地域外の専門家や企業の力を借りることが少なくなかった。防災という地域課題においては、完成品としての教材の普及もさることながら、ものを作り出すプロセスや、その事業に携わった人間が地域内に与える影響も無視できない。

自然災害の発生様式には地域性があり、備えの意識や対策の進め方には地域差が大きい。継続して災害への備えを進めるためには、この意識を共有し、自らがその共同体の一員であるという意識の醸成が重要になってくる。そこで現在進めている活動では、「その道の第一人者」、「業界ナンバーワンの技術力」といった現時点での評価のみならず、地域の一員としての活動を通じて、将来的にそのような評価が得られるポテンシャルをもった人々の参加を募った。

また、多様な専門性を持った人の参加を促すことにも注力した。防災を科学・技術的観点の視点のみから捉えると「専門家にまかせておくべきもの」という態度を生み出しやすい。イラストレーター、土木技術者、町おこし活動といった各自の日常的な活動の一部として防災に関係する事柄をとりいれることで、普通は防災とはあまり縁のない場面で、防災について話題にされる機会が生み出された。これにより防災至上主義的価値観を持った人とは異なる社会階層へのコミュニケーションチャンネルが得られつつある。

このような専門家が時間的に無理のない形で参加することで、これまでの防災教育に関する活動に比べると職業、年齢層、性別などに大きな多様性がうまれた。強い地域性を持った課題である防災においては、このような地産地消的な活動が、継続や地域の底上げという観点からも重要であると考えられる。

キーワード: 東海地震, 防災教育, 継続性, 地産地消, 津波
Keywords: Tokai Earthquake, Disaster education, Continuity, Locally produced and consumed, Tsunami